

## 会議録

会議の名称	令和3年度第5回新城市市民自治会議
開催日時	令和3年11月30日(火)午後6時30分から
開催場所	新城市役所本庁舎4階会議室
会議の次第	1 あいさつ (1) 会長及び事務局あいさつ (2) 市長あいさつ 2 報告 新城市市長選挙立候補予定者公開政策討論会について 3 議題 新城市自治基本条例に定める地域自治区制度の新たな可能性について 4 その他
欠席委員	なし

## 1 あいさつ

### (1) 会長及び事務局あいさつ

会長及び事務局から簡単なあいさつがされた。

### (2) 市長あいさつ

本日は、大変お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。11月13日に市長に着任しました下江洋行です。よろしくお願いいたします。

本日は、第5回目の市民自治会議です。令和3年度は、私も立候補予定者として参加しました公開政策討論会と地域自治区制度についての2件を検討していただいています。

公開政策討論会については、実行委員会が中心となって大変公平・公正な運営に努めて進めていただけたと思います。市民自治会議は、後方から、また、裏方的な立場での支援という役割であったかと思いますが、今回の運営等を振り返り、次回以降の制度の構築について、また御検討いただければと思います。

地域自治区制度については、新たな可能性ということで、制度が発展していくためのヒントとなる答申をしていただければありがたく思いますし、私も市民自治の推進に取り組んできたこの9年間の取組に協力をしていただいた一人一人の市民の皆様、協議会の委員の皆様にはしっかりと応えることができるように、この制度がさらに地域のニーズに合った制度として定着していくように、市長として責任を果たしていきたいと思っています。

まずは、本日の会議の冒頭に当たりまして、皆様への御挨拶とさせていただきます。本日の会議、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 報告

### 新城市市長選挙立候補予定者公開政策討論会について

この案件の関係者として、新城市市長選挙立候補予定者公開政策討論会実行委員会から委員長が出席した。

会長	それでは実行委員会委員長より公開政策討論会について報告をお願いします。
委員長	こんばんは。 それでは、事業報告書を基に説明をします。

実行委員会では、5月27日の委嘱から10月の開催までに14回の会議を行いました。実行委員会の会議は、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みてオンラインで行い、推薦委員の方が参加する会議と最後の1回のみオンラインとオフラインとのハイブリッドで開催をしました。

有観客・無観客の決定時点では緊急事態宣言期間中でしたので、開催日には緊急事態宣言は解除されていましたが、ティーズ・YouTubeでの開催となりました。

広報は、広報しんしろ「ほのか」、行政区宛文書でのチラシ、ティーズ「いいじゃん新城」での放送、やしの実FMさんからお声がけをいただいたラジオ出演で討論会のPRを行いました。また、SNSでの情報発信については、新城青年会議所のFacebook・Instagram、愛知大学の学生グループである「START UP」にも御協力いただきました。

討論会開催後の所見については、開催後の実行委員会の意見のまとめと重なるところがありますのでそちらを基に話します。

まず、実行委員会の始動時期について、今回は第1回目で、色々な諸手続があったようですが、5月27日が第1回の開催日となり、委員さんからもう少し早い時期から検討をしたかった、年度をまたいでの活動はできないか等の意見がありました。

委員の人数については、15人以内と規則で定められていて、今年度は公募委員9人で運営をしました。10人前後が適切ではないか等の意見がありました。今年度の9人の内訳ですが、これまでの討論会を主として実施してきた青年会議所から5名、私が青年会議所のOBで、ほかに一般市民の方から3名でした。次が4年後の開催となりますので、今回のこの流れを途絶えさせることなく、より多くの一般市民の方の参加があるように様々な活動をしていくのが良い等の意見が出ていました。

実際の運営には、運営経験のある青年会議所、又はそれに関わった方の意見が大事になると思いますが、この条例の意義として、一般市

民が選挙に関わる討論会の運営に関与するというのが1つの大きな肝かなと思っていますので、4年後には今年の3人を上回る一般市民の方に公募委員として参加していただけるように、この4年間を積み重ねることが望ましいかと思っています。

3番目に辞職等で市長が欠けた場合の対応ということで、本人を目の前に言うのもあれですが、4年の間にもし市長が辞職等により欠けた場合にどうするかということが当然まだ経験もなく、定めもない状況です。

地方自治法では50日以内に選挙を行うと定められていますので、その期間内に公開政策討論会をどう実施するのか非常に難しいところもあるでしょうし、実行委員会の中でも運営の想定がまとまりきっていないというのが正直なところです。参考として、私個人の経験ですと、これまで青年会議所が主となって討論会を開催したときは、おおむね動き始めから1か月程度で開催をしていましたので、日数的として無理ではないと思いますが、推薦委員の存在を踏まえて実施できるかどうかは、中々判断が難しいということが意見としてありました。

次に、市民自治会議との関わり方についての意見がありました。この条例の仕組みとして、市民自治会議のもとで実行委員会が活動するということですので、それを変えるのは中々難しいだろうと思いつつも、委員の選定、開催日の決定等に時間が掛かり、もっとスムーズにならないかというものです。

5番目はアンケートです。テーマ選定等のためのアンケートを行いました。その結果を公開したほうが良かったのではないかという意見がありました。ただ、私としては、立候補予定者・市民がアンケートの結果に振り回されるのではないかと危惧しています。立候補予定者の掲げる政策が、市民への迎合のため、アンケート結果の上位の分野に集中してしまう可能性があり、それが果たして良いのかという判断の中で、公開を控えたという経緯があります。

次に、新聞の社説でも意見があった会場の市民からの質疑応答につ

いてです。この方法については、過去の討論会の検討でも何度も挙がりましたが、中立・公正な質問ができるのか、特定の立候補予定者の政策に寄った質問になるのではないかという課題、会場で要点を押さえた分かりやすい質問ができるのかという課題の2つがあり、これまでの青年会議所の討論会では採用されていません。私としては、新城市では討論会が何度も開催をされて市民に受け入れられています、何度も開催する中でマンネリ化する部分がありますので、4年後に向けてこの方法を検討していく良い機会なのかなと感じています。

続いて会場管理です。今回は無観客開催としましたが、実行委員会としては、立候補予定者のサポート役の方3名まで来場可能としました。その際のルールを明文化しなかったこともあり、運営に多少の支障が出た部分が一度ありましたので、その部分を反省点に挙げています。

最後に、制度ということで、今回の開催でその是非を強く感じた部分が2点ありましたので、その点について説明します。

これまでの市長選挙では、5月・6月・7月に複数の方が立候補を表明し、秋の選挙への準備をしてきていました。今年度は、6月30日に下江市長が立候補を表明し、公開政策討論会の参加申出期限直前の9月21日に白井さんが立候補を表明しました。実行委員会としては、参加者が1人の状態のまま検討を進めることとなり、そもそも討論会を開催するのかという部分が大きな議論になりました。

この条例が市民の知る権利として構築されており、1人でも開催するということは認識しています。ただ、私たちが非常に危惧したことは、参加申出期限後に立候補を表明した場合にどうするのかということです。条例の仕組み上は、その状況であっても開催することに法的な問題はありませんが、実際の選挙となったときに、ある方は市の主催する公開政策討論会で自身の政策を市民に広く伝えることができ、参加申出期限後に表明をした方はそれができなかったということになります。法的な適否ではなく市民感情として、公正な選挙としてそれが受け入れられるのかというところが、実行委員会でも頭を悩ませ

	<p>た部分です。</p> <p>今回は、白井さんが期限直前に立候補を表明して公開政策討論会に参加されたので解決しましたが、1人開催の是非について私たちも結論が出せませんでした。</p> <p>また、1人で開催をした場合に討論会の中身をどう構築するのかということもあります。政策の実現性を深掘りしていくような討論とするのか、政策を知るための、それを褒めたたえる必要はないですが、淡々と聞くような討論とするのかというところで悩みました。</p> <p>立候補者が1人の場合には無投票当選となりますが、その場合には、その後に臨時の市民まちづくり集会等を開催することで、無投票当選となった市長の政策や人となりを知る機会というのは設けることができます。無理をして選挙前に実施する必要があるのかという意見もありました。非常に難しい部分ですが4年後に同じ悩みを抱える可能性がありますので、制度改正の議論をいただければと思います。</p> <p>2つ目は、参加申出期限です。今回では、9月25日が最終期限、27日に下江市長・白井さんに討論会の説明、28日に記者発表、30日に第1回目の政策シートの提出期限、当日の準備ということで、この1週間で実施する項目は多いです。せめて2週間前にするなど時間的な余裕がないととてもバタバタしますし、立候補予定者にも負担がかかります。</p> <p>参加者が1人だった場合の対応と最終参加申出期限の2点について、今後、条例を改正する必要があるのではないかと感じましたので、その点を要望しまして、私からの報告とさせていただきます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、確認したいこと、質問したいことなどはありますか。</p>
委員	<p>当日の討論会の様子を見ていて、討論が始まる前の導入部分が長かったように思いましたが、当日の運営について、課題や良かったところなどはありますか。</p>
委員長	<p>当日の運営について、実行委員会の中では大きな混乱なく無事に開</p>

	<p>催できて良かったというのが大半の意見でした。</p> <p>導入部分は、あいさつ・討論方法の説明・市の現状についての情報提供の部分ですね。その中でも特に情報提供の時間だと思いますが、情報提供は、市の現状を知っておく方が見ている方の理解度が高まるのではないかとということで、4年前を踏襲したということです。</p> <p>色々な情報をそこに詰め込み過ぎてしまったこともあるかと思いますが、実際に立候補予定者からも、短い時間で多くの情報が流れたため、見ている方はこれを受け取れたのだろうかという御指摘をいただいた部分もありました。今後の検討課題かなと思っています。</p> <p>また、政策の深掘りがどこまでできたのかということについては、正解のないものですが、いくつかの政策が討論される中で一つ一つが浅くなったところもあったかなと思います。今後の検討課題だと思っています。</p>
会長	ほかにいかがでしょうか。
委員	<p>委員の皆さん本当に御苦勞様でした。</p> <p>今回の経験を次回に生かすことが重要だと思います。1人の場合にどうするかということですが、立候補予定者のための討論会ではないですので、私は人数関係なく実施するべきだと思っています。市民の思いを質問形式にして、基本は市民が思うことを討論してもらおうというケースで考えれば、立候補予定者の数は関係ないと思います。討論してもらおう土台があれば、1人でも討論できる環境と質問があれば使命は果たせるのではないのでしょうか。市民の声を集めて立候補予定者に答えてもらうことを淡々と行うことも1つの形だと思います。</p> <p>それから、善し悪しは分かりませんが、この制度の活用方法として市議会議員選挙にも利用するなど色々とシミュレーションをして、私たちや今回の委員さんがかかわりながら、この条例を昇華させていくことが必要だなと思います。</p>
会長	御意見としていただきました。ほかにいかがでしょうか。
委員	今回と前回の違いとしては、立候補予定者の数と有観客・無観客の

	<p>2つが大きな違いです。</p> <p>2人の今回は緊張感が少し薄れる感じがしました。さらに人数が多い場合にはどうなるのか、そこは今後の課題かなと思いました。委員長さんはどう感じられましたか。</p> <p>もう1つ、無観客開催となったことについて御意見を伺いたいです。</p>
委員長	<p>4年前は3人でしたので25分を3回という形式でした。今回は2人でしたので、それぞれ20分ずつを2ターンという形式にしました。</p> <p>私としては、それぞれ1回ずつ討論をして、再度1回討論ができるということで、1回目の討論と相手方からの意見を聴きながら、もう一回後追い・深掘りができるという形を意図して、2ターン形式にしました。討論の時間が長く取れましたし、1回に40分ではなく行って帰ってという方式にしたことで、より冷静に議論ができるのかなと意図して作っています。</p> <p>2点目については、個人的には有観客としたかったです。ただ、新型コロナウイルスへの考えや警戒の仕方は、皆さん異なりますので、実行委員会の場においても、ある方からは合議制で決めればオンラインになるよねという御意見をいただきました。委員長の独断でという分けにはいきませんので、無観客という選択になりました。</p> <p>ただ、実際に行ってみて有観客と無観客では会場の空気感も違いますし、立候補予定者としても熱の入りが違うんだらうなと思いました。運営する側としては無観客の場合には会場準備が少ないのでその点では楽でしたが、やはり有観客の方が立候補予定者の本当の熱意がもっと出て、それが市民に伝わったらうなと思いました。</p>
委員	<p>本日は丁寧に御報告いただきありがとうございました。</p> <p>私からは2点質問をさせていただきます。</p> <p>1点目は、委員の負担についてです。討論会の開催までに14回、月2回ぐらいのペースで会議が行われたと思いますが、委員さんの負</p>



	<p>担についてどう感じたをお聞かせてください。</p> <p>特に、先程一般市民3人を増やしていきたいというお話でしたが、増やすとなるとどういった負担軽減をしていけばいいのか、今回はオンライン開催が主でしたので、その有用性についてもお話を伺いたいと思います。</p> <p>2点目です。先程年度をまたいで活動していくと余裕があって良いというお話がありましたが、1点目の負担と絡めてどれぐらいの期間があればより良い討論会にしていけるのかということについてもお話を伺いたいと思います。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
<p>委員長</p>	<p>負担については、事務局と2週間に1回ペースで会議を開催しましょうということで、お話をさせていただきました。委員の皆さんが集まりやすい時間が水曜日の夜7時からでしたので、そこから1時間半から2時間程度で開催をしてきました。9名全員がそろうことは少なかったのですが、仕事もある中ですので、時間の調整に負担を強いたのかなと感じました。</p> <p>今後、多くの一般市民の方に入っていただくとすると、時間のやりくりについては非常に難しい部分もあるかと思いますが、ただ、新城市の市民自治を昇華させていく上では、一般の方にどんどん入っていただきたいと感じた次第です。</p> <p>委員会の始動時期がいつが良いかと言われると難しいです。私自身も反省点としてあるのは、5月から開催しましたが、どのような内容を議論していくべきかというところの準備が足りなかったのかなと思う部分もあります。討論を深めるための方法、先程出ましたが会場からの意見の是非、そういった話し合う内容をもっと明確にしておけば、また違ったのかなと思い、その点では反省する部分もあります。ただやはり、5月からでは中々タイトなスケジュール感であったというのが正直なところではあります。4年後どういった方が実行委員会を担われるのか分かりませんが、立候補予定者の方の情報をより引き出して</p>

	<p>くためにどうするべきか、より議論を深めるためにどうするべきかということをしつくり時間をかけて検討していただくとより良いものになるかなと思いますので、早めの開催が望ましいと思っています。</p>
会長	<p>ほかにはよろしいですか。</p> <p>報告書の作成も大変だったかと思います。市民自治会議の委員さんにじっくりと読んでいただき、また市民自治会議の中で検討したいと思います。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>

#### 4 議題

##### 新城市自治基本条例に定める地域自治区制度の新たな可能性について

昨年度の検討の経過及び前回（第4回）の意見のまとめについて、事務局から説明がされた。

会長	<p>第4回から時間が経っていますし第3回までは公開政策討論会の準備や審議に時間を要しましたので、限られた時間の中で得られた皆さんからの意見を集約しています。</p> <p>第4回の意見、そして考えられる方向性を書いてみましたが、追加の意見等ありますか。</p>
委員	<p>顔を合わせての会議が少なかったため、中々それぞれの方の考え方が分からず、この文面だけでは真意が伝わらないことがあると思います。どなたの意見だったかを知りたいなど。そうすると意見が聴きやすいですし。</p> <p>前回のまとめを読んでいて、若者や女性にすごく期待する内容ですが、現役を引退して時間が取れる方たちの活躍の場を求めるということも入れていただきたいと思います。</p>
会長	<p>はい。出された意見の記載方法については今後の課題として、まず若者・女性というところに非常に意見が集中していて、参加しやすい、あるいは、話しやすい、そういう若い世代の市民参加を促していくような協議会とすることが大切ではないかという意見がこれまで多か</p>

	<p>ったですが、まずそのことについて若者の皆さんの率直な意見を正直なところで聞かせてもらえたらと思います。</p> <p>もう1つ、退職世代・ベテランの方が当然市民には増えてきていますが、そういう方たちの中にも地域協議会を盛り立てていこうという意欲とそれから経験がある方はたくさんいるはずですので、そういう方たちの参加の場づくりをどうしていくのか、その点についてほかの委員の皆さんからも提案や御意見がありましたらぜひ出していただきたいです。</p>
委員	<p>若者・女性にかなり意見が寄っていることは僕自身も感じました。</p> <p>前回もお話ししましたが、若者と女性を入れれば良いというものではないと思います。</p> <p>もちろん、現在、若者や女性の意見が反映されていない現状というのはあると思いますし、そこに対して耳を傾ける姿勢、体制の構築というのはもちろん必要になってくると思いますが、この市民自治会議の意見として、女性を若者とするのはある種無責任なのかなと、そこを結論とすれば良いだろうみたいなところを感じてしまうので、特に若者・女性の意見をもっと吸い上げるべきだという意見をお持ちの方には、その辺りをどう思われるのかをお聞きしたいと思います。</p>
委員	<p>今の意見はそのとおりだなと若者かつ女性として思います。</p> <p>私も若者議会と女性議会を経験していて、この市民自治会議以外にも他の色々な世代が集まる会議に若者議会出身者ということでお声がけいただいて、都合もつき、興味もあるので出させていたいただいています。</p> <p>実際、メンバーは結構同じだなと思ってしまっていて、若者議会からでもよく見る顔なので、興味がない人をいかに取り込めるかということ考えた方が、そういう意味で若者を取り入れましょうということかなと思っています。</p> <p>自分は、参加してみて、こういう年代の人はこういうことを思っているんだなどを知れることはすごく貴重だなと思っていて、それが日</p>

	<p>常生活の中でも、具体的には挙げられませんが少しリンクしたりする部分があるので、こういう経験をたくさんの方々・女性にしてみることが、取り込んでいきたい理由かなと思いました。</p> <p>定年退職の方が活躍できる場を創るような議論をしてはどうかという意見はしっかり入っているので、これを若者議会で提案してもらえればという部分も、理由付けができると良いと思います。</p> <p>資料の考えられる方向性の(4)で、若者議会と地域協議会との連携がありますが、私が第1期で若者議会の委員をしているときに地域意見交換会に若者議員がランダムで二、三人行って、若者議会の活動内容を説明しに行きました。それで、自分の親、おじいちゃんおばあちゃんぐらいの世代の人がほとんどの中で、若者議会について説明や質疑応答をしたことは今でも鮮明に覚えていて、このときにも若者議会を知らないから、市のパフォーマンスではないかと本当に率直な意見をいただいて、だからこそ結構今でも覚えていて、そういうすれ違い・先入観で終わるのはもったいないなと思いました。若者議会でのその経験は大きいので、この協議会との連携は普通だったら会わない人たちが会って新鮮というか斬新というか、本音を吸い上げて、それを生かしていけると良いなと思いました。</p>
委員	<p>お2人が言ってくれましたが、色々な協議会に参加する人は年が上の50代・60代で、若者議会や女性議会は若い人が多くて、中間の年代・子育て世代の30代・40代の仕事をバリバリしている人たちの意見も聞かないといけないと思うのが率直な意見で、この市民自治会議も中間が少ないです。若者・女性ではなくて色々な世代の人が集うことでもっと良いものになっていくのではないかと思います。</p>
委員	<p>私も若者・女性にすごく偏っている印象を受けました。</p> <p>若者・女性が入りやすい環境づくりとしては、まずは実態を知れる機会があるともう少し身近に感じられると思います。私は、コロナワクチンの予約をきっかけに新城市のLINEを追加して、私のような人は結構いると思います。若者が情報を得やすい媒体・SNSを使っ</p>

	<p>てどういう人が参加しているのか、そのインタビューのようなものをまとめたものなどが流れてきたら、もう少し身近に感じられますし、自分と同じような人が参加していることが分かると思うので、そういうきっかけがあると、もっと入りやすい環境づくりができるのではと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>2点目の話題に入る前に、今の4名の意見に触発された方も多いと思いますので、今の意見についていかがでしょうか。</p>
委員	<p>私は、中間の子育て世代です。</p> <p>確かに若者世代・退職世代の意見も大切だと思いますし、30代・40代の意見も大切だと思います。</p> <p>私は、地域協議会も顔を出していますが、そこで育てられたという気持ちでいます。色々なことを吸収することができました。考えるようになったということがあります。</p> <p>子育てをしている中で、子どもたちにそれをやらせたい、考えさせたいと思っています。中学生の子どもには、生徒会などで色々なことを提案して実行したいと思ったら、先生ではなく親を巻き込めと言っていきます。親を巻き込めば地域の人も巻き込める。そういう活動をしていけるようになってほしいなと思って子どもたち教えています。子どもたちが育って行って若者議会に出るような立派な子どもになってくれればと思っています。</p> <p>その反面、退職された方たちにも一緒にやってほしいなと思うので、貴重な意見であったり、見守っていただいたり、私たちは意見を出すというよりも身構えていたいという気持ちもあります。</p>
委員	<p>私は退職世代ですが、やっぱり自分が勤めていたときには色々なことに携わることができませんでしたが、1つ上の世代の方たちは当時色々な活動をしている人たちがいて、自分が退職したときにはそれを見て私たちもこうしようと思って今につながってます。</p> <p>先日小学2年生の子が私たちのお店に先生と一緒に話を聞きに来</p>

	<p>て、新鮮な野菜を生で食べたことがないということでしたので食べてもらったりしましたが、すごく感動してくれました。その後のお手紙の中で1人の子が、地域の方に美味しい物を提供して笑顔にできることがすごく良かったと、いずれはそういうことをしたいということを感じて書いてくれました。</p> <p>一気に若い世代・女性ということではなくて、本来この地域協議会等を進めていくためには、小学生ぐらいから、地域の中でどうやって自分たちが関わるのか。子どもたちはすごく順応します。食べたことがない生の野菜を食べてくれたり、100年経った家でも使えるんだよと言ったら、そのことが手紙に書いてあったりして、今地域の中を回っているみたいで、そういう教育ってすごいなと思います。一気に若い人たち頑張ろうよ、女の人頑張ろうよとかではなくて、その辺からやっていくのかなとすごく感じました。</p> <p>若い世代にもそういったプレッシャーがあるとは思いますが、若い世代・中高年・高齢者がつながるような地域づくりができるのではないかなというのをすごく感じていますので、肩に力を入れなくてもできることが沢山あるかなと思いました。</p> <p>あと、中学生議会の資料を見ると、すごく意見を持っていて、なくなってしまうと残念だなと思うので、もっとつなげていっていただけるとそういった考えを持つ子が増えるのではないかなと思います。そこからの積み上げがあると良いなと意見を聞いて感じました。</p>
委員	<p>色々な意見を聞きましたが、結構人数のいるところでの協議会かなと思います。協議会の話の中で出ましたが、若者・女性の参加、特に女性については2名出すということで実際にいますが、子どもの送迎、家事、仕事に加えて負担がかかってくると、それを見ているからお願いは難しいです。ある程度年齢を過ぎると会議には中々出てくれないんですね。</p> <p>若者は仕事がありますし、また、今は消防団員も全然いません。それから、子どもも減って、私の地域ではもう中学生以下が1人もいま</p>

	<p>せん。そうすると、委員の選抜の話を今していますが、人数が少なくなってくると同じ顔しかいなくて一部の人にもものすごい負担がかかります。協議会の中でもマネージャー制度の話が出ましたが、また新たな人員が必要です。</p> <p>来年で10年を迎えますが、5年ごとに見直しをしましょうということで、今自分も考えています。意見の吸い上げについては、会議に来てもらう方法は難しいところがあるため、何かで集まる機会に出向く方法も1つかなと思っています。</p> <p>地域協議会ごとの意見を見てみると、それぞれの地域にそれぞれの課題があります。協議会はそもそもそういったものですが、こうあるべきだと1つにするより、地域ごとに課題や年齢の構成も違って、地域に合ったまとめ方というのがあると思います。私の地域も高齢者が増えてきて、これでも地元に戻ると若い衆でいますので、下がないためいつまでたっても若い衆で、役がくるとやっぱり重複してしまっ、どこに行ってもいるねとよく言われます。自分ができる間は行くよとするとそうになってしまいます。そのため、色々な人の意見を集約するというのは難しく、この地域にあった形をつくっていきましょうということで、今そういう考えで動いています。</p> <p>協議会もこれで10年目になりますので、それぞれでまた考えてもらえると思いますが、もっと色々な人を出して、自分たちで地域の課題を考えてそれを少しずつ解決していくというのが協議会だと思いますので、そういう方向で進んでもらえれば良いと思います。</p>
委員	<p>地域協議会の運営で常日頃思っていることを言うと、前にもここでお話したかもしれませんが、どうしても協議会の委員さんには御年配の方が多く、女性は数名いますが少なくなります。地域の課題ということになると年配目線の課題が多くなりますが、これからの地域を担っていくにはそれよりも若い中年の世代・青年の世代の意見を吸い上げる必要があるなど常日頃思っています。若者・女性であれば良いということではなく、そういう見方から自由にものを言っていただけれ</p>

	<p>ば非常に参考になるということです。</p> <p>女性・若者といわれますが、中々委員になっていただけないのは、それぞれの地域で知らないという部分もあるでしょうし、経験も少なく尻込みするという方もいるでしょうし、そういう方を後ろから押し出てきてもらい、そこで話をさせていただいて成功体験ではないですが、充実した部分を少しでも味わってもらえれば、そこから広がっていくのではないかなと思います。人選は難しいところですが、今いるメンバーでそういう方にアタックしていただくということを切に望んでいます。</p>
委員	<p>地域自治区という制度は地域の問題なんですよ。それなのに、市民自治会議で意見をまとめると若者・女性が出てきますが、結局地域で若者・女性の意見を吸い上げることが大切だということでしょうか。</p> <p>地域協議会の委員は当時と変わっていなければ行政区長が主たるメンバーで90%ですね。その中に若者とか女性が入るとなると10%くらいかな。その会議で課題や希望を聞いてきて、それで結局地域に戻りますよね女性も若者も。だとすると、地域の問題なので区長にしっかりとその趣旨を伝えて、そういうことではないでしょうか。</p> <p>私も区長のときには色々考えました。</p> <p>私の地区はとても人数が少ないため、全家庭から1人ずつ集まる会議が年間10回ぐらいあります。そこには色々な年代層が参加しますが、家庭を代表する人だから、若者はまず来ません。そもそも若者が少ないので、平均年齢を調べたら70歳でした。そういう地区にとっては若者の意見を吸い上げるのは、人数が少なくて。やっぱり地区の問題として捉えるしかないように思います。</p> <p>当時、自治区制度の趣旨と違うのでほかのことを考えてくださいということと言われた経験がありますが、地域の問題なのでそういうことのないようにできるだけ幅広く受け入れてほしいなと思います。</p> <p>駐車場の整備など地区自治区ごとに色々な活動がありましたが、あ</p>



	<p>くまでも地区の問題なので、もう少し区長にしっかりしてほしいなと、市役所でも区でまとまった意見を取り上げてほしいなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今年また何年かぶりに協議会に入りましたが、当時はかなり男性が多くて女性が少ない状況でした。それで、今年参加をしたら女性のテーブルに6人、若者のテーブルに6人、あと少し高齢の人で、年齢別でテーブルが作られていて、私は女性枠に入りますが、1つの意見に対してとか、みんなで考えたり、テーブルごとに考えたりで、高齢者になったらごみ出しはどうすれば良いのか、そういう問題が出たときに、若い人たちは若い人たちで考えて、意見を出し合って最後に発表するという形で今行っています。</p> <p>子育て世代の親と女性だけの、野良猫が沢山いて困っているんですと言ってその問題についてみんなで検討をしたら、野良猫をみんながもらいに来たというふうに解決がされました。</p> <p>協議会は、先ほど言われたみたいに地域ごとに違うので、若者がいるところは若者が入れれば良いではなくて、その地域で起きる問題をそれぞれの世代がみんなで考える場所だと思います。それが今後の地域の力になるというか、1つの問題を高齢者ばかりで考えれば良いじゃなくして、若い人たちがどうすればその問題を解決できるか、子供たちがバスで通うのに公共交通がすごく不便で悩んでいることを、またそういうグループで話したときに、すごく違う意見が出てくるんですよ。協議会というのはそうやって進歩しながら、地域づくりをしていくので、協議会に色々な人を巻き込むことが大切だなというのをすごく思いました。</p> <p>今年入っていて少し思ったことは、同じグループの女の人が制度を分かっていたいなかったと思うんですけど、説明をしたら、私たちはそんなこと全然知らなかったと言われました。でも、参加したから分かったことです。その人が辞めて次の人を選んでくるときに、その人がまた同じような人を連れてくるだろうと思い、私は何となく世代が一緒</p>

	<p>になって協議会を盛り上げているなということをしごく今年の協議会の委員に入って感じています。地域の問題は地域で考えなければいけないですが、そういった意見をまた会議で、こういった意見があった、こういうことをしたらどうだということも、やはり話し合えるべきであって、それを自分の協議会へ戻したりする場所なので、自分の地域はこんなふう困っているということもあると思いますので、意見としては色々な意見が合った方が良くかなと思いました。</p> <p>ですので、そんなふうな協議会にどの地区もなっていくと良くかなということをしごく感じています。</p>
委員	<p>私は、地域協議会に関わって活動した経験はありませんが、市民自治会議の中で地域協議会の活動をずっと見てきた中で、福祉・生活に近いところでのテーマで活動しているところはあまりないんだなと、活動交付金の申請を見てもないんだなということが分かりました。</p> <p>私自身は福祉に少し携わっているのですが、先程言われたみたいに、地域の課題は普段の生活の中での少しの困りごとなどだと思います。多分それが暮らしから出てくるニーズで、みんなが必要としていることかなと感じているので、できれば意見のまとめの2番目の方向性の(4)に、若者議会、女性議会と、地域協議会との連携がありますが、連携する相手を限定せずに、もっと色々なところと連携をしていけるような地域協議会の在り方であっても良いのかなとしごく感じています。</p> <p>福祉系で地域で活動する人たちと、まちづくり系で、例えば、市民活動サポートセンター、そこに登録した人たちはまた違ったグループで、出会うことがほとんどありません。もしこれが出会っていくと、お互いの知恵や一緒にしたいことやできることがたくさんあって、もっと広がっていくかなと思いますし、地域協議会の中で、あるいは、それぞれの地域の中でニーズとしてこんなことがしたいとか、こんなことが知りたいという人が出たときに、もっとお手伝いしたいということにつなげていけるかなと感じています。なので、色々なところと連携できる方法を考えたほうが良いと思いますし、新城は広いので本</p>

	<p>当に暮らしがみんな違って、けれど、違ってでもみんな新城市民として暮らしているので、年代・地域が違って困ったことを困ったねと言えるような、あるいは、どうしたら良いかねと言えるような場を沢山作って行って、わざわざアンケートしなくても、困ったことを困ったと言える場を作るということを、地域の中でやっていけば、それがみんなの意見・声になると思いますし、市役所がやってくれるじゃなくて、みんなで解決できることもあるかなと、色々な意見を聞きながら、そんなふうに思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、時間になってまいりましたので整理したいと思います。</p> <p>今日は、前回の経過も踏まえて、意見や方向性についても一度率直な話を聞かせてもらって、それからまとめていくことにしたいということで考えていました。</p> <p>今回皆さんからいただいた意見を整理して、とても具体的な提案がありましたので、それを踏まえて今日時点の案として用意した答申の案を大きく組み換えて作り上げてみたいと思います。</p> <p>今回の資料の意見のまとめや方向性は、非常に殺風景で読んだ限りでは意味が伝わりにくいので、今日の議論のきっかけとして利用できればよかったと思いますので、次回は、今回の意見を組み込ませたより具体的な答申案にしてみたいと思います。</p> <p>今日のお話の中で、60代・70代の皆さんから見る若者は一体何歳なのかというのが、もしかしたら30代・40代・50代、その方たちがむしろ若い世代と捉えることもできる。中間の世代の人たちですよね。その人たちの参加や意見をどうやって酌み取ったらよいのだろうか、そこを今回ずばり言っていただいたような気もしました。この辺りを、それから、個人なのかボランティア団体なのか、ボランティア団体に参加していればグループとしての意見になるだろうし、個人ということになるとこの制度をもっと周知していかないといけないという課題もあるし、30代・40代・50代前半、この辺りが地域によっては若い世代の中に入ってくるのかもしれない、そ</p>

	<p>ういったことも今回教えてもらったような気がしました。</p> <p>毎日の生活の中での苦勞を抱えながら、その上で助け合っていくために地域でどんな備えをしたら良いか、みんなで話合ったら良いのかという、とても重い課題を突きつける対象として30代・40代・50代ですね。大事な意見・考えをお持ちなので、その辺りをどう酌み取っていけるのか、必要なのか、今回の話の中でヒントがあったようなので、一度まとめてみたいと思います。</p> <p>それでは、ありがとうございました。</p>
--	---

## 5 その他

次回日程

日時 1月26日(水) 午後6時30分から

場所 市役所本庁舎4階会議室

閉会